

◆ 2019年度活動報告シート ◆

団体名：NPO 法人 かわごえ里山イニシアチブ

22A-23

代表者：代表理事 増田純一

URL : <http://kawagoesatoyama.ciao.jp/>

1. 活動が必要とされた状況

活動基盤として、ラムサール・ネットワーク日本が国連の生物多様性締約国会議(COP10)の達成年度である2020年を目標として取り組んでいる「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」の行動計画を基本に活動しています。

活動の背景としては、農薬は労働力を削減し、効率的なお米作りに劇的な効果をもたらしている反面、特にネオニコチノイド系の農薬は、生きものの生態系や子供たちの脳神経に悪影響を及ぼし、発達障害、自閉症、多動性障害などを引き起こしていると言われてい

ます。また、田んぼからの水は河川に流れ、やがては飲み水となり自分たちの体に循環していきます。このため河川を汚さない農薬や化学肥料を使わない米作りで、田園風景を保全し人と自然と生きものが共生できる環境豊かな地域を目指して活動しています。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

全般として、「生きもの育む田んぼプロジェクト(PJ)2019」で米作りを中心に年間通じた活動を行いました(会員76名中、PJ参加者27名)。3月26日種の温湯消毒(6名)、4月6日恒例の村人総出で行う堀さらい(約60名、里山8名)、4月30日種まき(15名)を皮切りに年間の本格的な活動が始まりました。5月25日マコモの植付(10名)、6月1日田植え(50名)を行いました。6月23日印鑑智哉氏による「いのちを守る種の話」講演会(70名)、7月7日生きもの観察会(50名)を開催しました。9月の稲刈りイベントは雨天により中止し、11月は台風被害によるわら除去作業を地元との協力で2回にわたり行いました(延べ25名)。11月16日地元へのマコモ感謝Day(45名)、11月23日ミニ収穫祭(30名)、12月7日農福連携試行としての障がい者施設でのマコモ茶づくり(15名)、12月22日に1000年の歴史を持つ川越八幡宮でマコモで正月飾りづくり(35名)を開催し脚光を浴びました。2月16日第2回田んぼIoTセミナー(30名)で最先端に行くIoT技術を紹介し、IoT専門誌CNETJAPANの取材を受け記事に掲載され大きな反響を呼びました。この他稲作文化の伝承としてマコモでお盆飾り、七夕飾り作り、ドンド焼きなどを行いました。今年度の特徴的なことは、地域連携、大学連携、農福連携を意識して活動を行っていることです。



3. 活動の成果

これらの活動が徐々に地域密着型となり田園風景を保全し持続可能性のある活動に成長しつつあり生物多様性の普及や啓蒙に寄与しています。令和元年12月に生物多様性アクション大賞の「入賞」を受賞しました。ラムサール・ネットワーク日本10周年記念シンポジウム、12月SDGsエコフォーラムin埼玉、令和2年2月農林水産省主催の「農村×SDGsフォーラム」などで講演し活動が注目を浴びています。

4. 今後に残された課題

拠点の整備や6次産業化に向け大学連携を強化し、農福連携の枠組みでの取り組みの試行、ビオトープ花壇公園の整備、効率的な運営が出来る組織体制づくりを課題として取り組んでいきます。